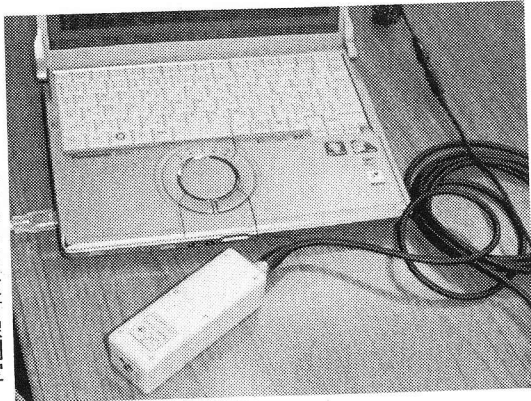


オプトメカトロ

放射線測定器に参入



リアルタイムに高精度な放射線測定ができる「ガンマプローブ」。5月には小型モニター付きの機器を投入

自社製品相次ぎ投入

【浜松】オプトメカトロ（浜松市中区、久米英浩社長、053・473・2261）は、放射線測定器事業に参入する。2日にリアルタイムに高精度な放射線測定ができる機器「ガンマプローブ」を発売。続いて5月をめどに小型モニター付きタイプ「ガンマモニター」も発売する。自社製品の市場投入は初めてで、初年度売上高2000万円、3年後に1億円を目指す。

オプトメカトロは光関連技術開発のベンチャー企業。久米社長は浜松ホトニクス出身で、光技術の応用製品を開発・事業化した経験を持つ。2009年2月にオプトメカトロを設立した。今回発売する製品は浜松市からの補助金1000万円を合わせた約2000万円を投じて開発した。放射線測定器の性能は両製品ともに、1分間当たりの放射線測定回数が8000回で、測定可能な放射線量は0.001

50μSv/h。放射線エネルギーの強さの測定範囲は10⁻¹〜2⁺μEレクトロンボルト。放射線の量と強さを分析することで、セシウムやコバルトなど放射線源の物質を特定することもできる。価格は

ノートパソコンなどに接続して使うガンマプローブが20万円、ガンマモニターが25万円。現在、市場に出ている製品には1万円以下の安価なものもあるが、1分間当たりの放射線測定回

数が約20回と少なく、線源特定もできないなど正確な測定が難しいという。また線源特定ができる製品は50万円以上と高価なものもなかった。

開発した製品は高性能な割には比較的安価な点を売り物に、東日本大震災被災地の空間線量や農産物の選別、海のヘドロ調査向けなどとして販売する。